

一般質問

市政全般にわたり16人の議員が質問しました。

一刻の猶予もない 少子化の現状打破を



安田 早苗議員 《座間市公明党》

本市の合計特殊出生率は、全国平均の1.33に対し、14と近隣市の中で最も低い出生率であり、この傾向は2011年から続いています。子供や若者世代に対する未来への投資は、人口減少を食い止めると同時に社会保障の担い手を増やすことになり、本市としても一刻の猶予もない少子化を乗り切るためにも、子育て政策を最重要政策と位置づける必要があると考えますが、市長の所見を伺います。また、出生率が低水準を維持してきた要因の分析は必要であり、精査した上で少子化対策を講じるべきであると考えますが、見解を伺います。

本市における投票率を上げるための取組と 本市の市民後見制度の現状について



川崎 高一議員 《さま大志会》

2019年の神奈川県知事選挙において、本市の投票率は36.75%であり、極端に低い数字でした。2023年の統一地方選挙における本市の投票率を上げるための取組を伺います。また、共通投票所の設置について見解を伺います。次に、本市の市民後見制度の現状を伺います。

選挙管理委員会事務局長 啓発用広報紙の新聞折り込みや戸別配布、公共施設等への配架、公共施設へ選挙啓発用のウェットティッシュの配架、本庁舎への懸垂幕の掲出、公用車のボディパネルの掲示や広報車による投票の呼びかけなどを予定しており、SNS等を活用した情報発信にも努めます。共通投票所の設置については、二重投票を防止するため、各投票所をインターネット回線ではない独自のネットワーク回線で結ぶ必要があり、多額の費用が経常的にかかるという課題は解決していないため、設置する考えはありません。

ハーモニーホール座間の指定管理者は 公募で選定すべきではないか？



沖永 明久議員 《会派に属さない議員》

ハーモニーホール座間の指定管理者の指定は、公益財団法人座間市スポーツ・文化振興財団が公募によらず、特命指定されてきました。今般明らかとなった当該施設における不適正利用と不適正な事務処理を鑑みれば、財団の指定管理者としての適性が問われるところだと思います。

そこで、ハーモニーホール座間の指定管理者の指定に当たっては、公募により、複数の申請者に事業計画書を提出させて、指定管理者を選定すべきと考えますが、市長並びに教育長の見解を求めます。

市長 これまでの財団の事業執行はおおむね適切に行われていたという認識でしたが、適正ではない利用が確認されたので、今回の事業の全容把握、再発防止策を考えていただくことが第一であると考えています。その上で状況によっては、財団の体制や指定管理の在り方も含めて検討する必要性を感じています。

公平性・透明性の確保を図る 包括施設管理委託の導入を問う



伊藤 多華議員 《座間市公明党》

座間市包括施設管理委託仕様書（案）について、「可能な限り」や「最大限配慮する」という消極的な言葉が使われています。このような消極的な言葉ではなく、「再委託する」や「調達する」と言い切ることが、地元事業者にとって大事なことと考えますが、市長の所見を伺います。また、予算について、約7億5千万円の20%から30%がマネジメント料であることですが、約2億円を上乗せしても包括施設管理委託を進めるメリット、デメリットを伺います。

市長 包括施設管理委託の導入によって、現状よりも地元事業者の受注割合が増加することを望んでおり、地元事業者への発注を積極的に促す仕様書となるように工夫をしていきたいと考えています。また、本市の公共施設は老朽化が進んでいる状況であり、維持管理にはこれまで以上に専門的な知見などが必要になると考えています。そのような中で、他の自治体も同様ですが、技術職の確保が大変難しい状況であり、市職員の負担軽減や多様な事業を推進することも含めて、包括施設管理委託の導入を検討しています。また、この委託の導入に関する情報については、可能な限り、情報発信を行ってきたいと考えています。

相武台前駅周辺の市道5号線に おける歩道の安全対策について



松橋 淳郎議員 《さま大志会》

市道5号線は昭和31年に決定された都市計画道路の一部であり、今日まで都市計画道路整備の一環として改良が行われてきました。今後の課題として、市道5号線と市道32号線、変則交差点周辺の歩行者の安全対策が挙げられます。現在、歩道拡幅のための用地取得の協力を得られていない地権者と取得に向けた話合いの状況を伺います。

都市部長 現状では、地権者にはご理解いただけていると思います。しかし、それぞれその土地に対する考え方や思いは異なるので、これからは粘り強く交渉し続けていきたいと考えています。

生涯学習プラン 歴史ある本市の 社会教育（生涯学習）を問う



安海 のぞみ議員 《会派に属さない議員》

今後、8年間を計画期間とする座間市生涯学習プランは、幼年会に始まり百年を超える本市の社会教育の在り方を示す重要な指針と受け止めます。障がい者の生涯学習の推進が基本方針のひとつに掲げられており、学習の支援や機会の提供、障がいの有無にかかわらず共に学ぶ環境づくりとして障がい者が学習を通じて人とのつながりを持つ場を進めるとしていますが、これまでの取組と今後について伺います。次に、社会教育のテーマとして、社会や地域課題にどう向き合うかが重要です。本プランの基本方針に、地域や市民生活の課題などを取り

上げて、まちづくりや人づくりを念頭に学習機会の提供に努めるとありますが、現状と今後の課題について伺います。

教育部長 障がい者の生涯学習について、これまで、当事者や支援者に向けた市立公民館での講座や市民自主企画講座等を実施しました。相互提案型協働事業では芸術家団体と共にアート講座や展示会を開催しました。今後も事業内容を対象者への周知方法を研究していきます。また、地域課題の解決に向けては、日本語教室やフリースペース事業等を行っています。今後も関係団体と連携し、円滑で効果的な運営に努めます。

議会日誌

- 2/16・第1回定例会本会議
 - ・議会運営委員会
 - ・議会ICT推進検討委員会
- 17・第1回定例会本会議
 - ・議会運営委員会
 - ・予算決算常任委員会
- 20・座間市立市民文化会館の適正ではない使用に関する調査特別委員会
- 24・第1回定例会本会議
- 27・第1回定例会本会議
 - ・議会運営委員会
- 28・第1回定例会本会議